

いずみ

令和8年度 10月号
図書委員会 2年4組・5組
後藤光瑠 ・ 作道心緒
大塚剛生 ・ 星加七海



朝夕の空気が少しずつ涼しくなり、秋の訪れを感じる季節になってきました。さて、今月号では、文化祭に参加する部活の部長(2年生)さんたちにお勧めの本を紹介してもらいました。気になる本が見つかったら、ぜひ手に取ってみてくださいね。 🍎🍎🍎🍎🍎🍎🍎🍎🍎🍎🍎🍎🍎🍎🍎



『掬えば手には』 著:瀬尾まいこ

(書道部 和田一紗)

この本は、人の心が読める大学生・梨木が、バイト先の心を開かない新人・常盤の心を解きほぐす心温まる物語です。誰もが抱く不安や悩みにそっと寄り添ってくれたり、梨木のひたむきな優しさに前向きな気持ちをもらえること間違いなしです。



『汝、星のごとく』 著:風良ゆう (華道部 高尾朝陽)

家庭問題を抱え、理不尽な現実の中で自らの人生を賢明に生き抜く主人公たちの姿に胸を打たれます。登場人物の行動や台詞が、これから大学受験をはじめ、様々な困難に立ち向かう高校生に勇気を与えてくれると思います。ぜひ読んでみてください。



『蒲団』 著:田山花袋 (美術部 脇野帆香)

この本は、妻子を持つ中年の文学者・時雄が弟子の芳子に抱いた恋心や嫉妬に苛まれる恋愛作品です。教師、大人としての立場で踏みとどまる一方で恋を諦めきれない時雄の苦悩、巻き込まれる細君や芳子、甘い恋とは一味違うこの作品をぜひ読んでみてください。



『夜と霧』 著:ヴィクトール・フランク

(海外研究・英会話部 山口和真)

ユダヤ人で心理学の著者がナチスドイツの強制収容所での実体験を記した本です。戦争という悲痛で強烈な体験をただ描くのではなく、心理学の知見を交えて、人間としての在り方を考えさせてくれるような内容です。ぜひ一度読んでほしい一冊です。



『また、同じ夢を見ていた』 著:住野よる

(郷土研究部 星加七海)

この本は、主人公が三人の女性との出会いを通して、幸せとは何かを探していく物語です。幸せは特別なものではなく、日常の中にある小さな喜びなのだと感じました。失敗しても前を向くことの大切さを学ぶことができます。



『科学オタがマイナスイオンの部署に異動しました』

著:朱野帰子

(コンピューター部 岡下滉生)

私がこの本をお勧めする理由は主人公の信念がとても強くかつこいからです。会社の人に嫌われてしまって異動がおきても、科学やデータを信じて行動する性格が、信念が強く凄いと感じたからです。データなどが好きな人など、是非読んでみてください。



『星の王子さま』 著:サン=テグジュペリ

(ダンス部 田中萌愛)

大切なものは、目に見えるものだけではないと気付かせてくれる物語です。星の王子さまとの出会いを通して、人とのつながりや本当に大切なものについて考えさせられます。読むたびに新しい発見があります。自分にとって大切なものをこの本で見つけられるはず。



『成瀬は信じた道をいく』 著:宮島未奈

(写真部 丹原一樹)

この本は、本屋大賞を受賞した『成瀬は天下を取りにいく』の次回作で、前作よりパワーアップした成瀬を知ることができます。成瀬の発言や突拍子もない行動に驚かされますが、それが私たちになんにも挑戦する勇気を与えてくれます。

 『考えるヒント』 著:小林秀雄 (科学部 岡本紘明)

身近な常識や良心、歴史や文字を題材として、物事を深く考えるきっかけを与えてくれるような随筆集。読んでみると普段は当たり前だと思っていることにも、本当にそうなのかと考えることができる。自分の頭で物事を考えるきっかけになる本です。

 『ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー』

著:ブレイディみかこ
(吹奏楽部 伊妻 華)

イギリスで暮らす親子の日常を通して、人種差別や貧困など、社会にあるさまざまな問題について考えさせられる作品です。

自分とは違う考え方や環境を持つ人の立場を想像することの大切さに気付かされます。ぜひ読んでみてください！

 『ノマハム・ガーデンズの家』 著:ペネロピ・ライヴリー
(茶道部 萩原市佳)

この本は今年の夏の課題図書の本でした。主人公の前を向き続ける姿勢を読んで、ぜひ北高生にもより一層明るい未来を見て歩み続けてもらいたい！と思い紹介しました。普段、あまり本を読む機会がないかもしれませんが、ぜひ読んでほしいです。

 『プロジェクトヘイルメアリー』 著:アンディ・ウィアー
(演劇部 丹下大和)

この本を読んでもらいたい理由は、この本が傑作 SF 小説だからです。普段、本を読まない私でも、夢中になって読んでしまいました。宇宙が好きな人には特にお勧めします。



～文化祭では、図書委員会も様々な企画を準備しています～

- ・古本市…家で読まなくなった本を集めて図書館で販売します。
 - ・紙上ビブリオバトル…図書委員が皆さんに紹介したい本を選び、絵や文章で魅力を伝えます。
 - ・図書クイズ…図書館や読書と関係あるものを題材にしたクイズをします。
 - ・リレー小説…図書館に置かれているノートに、みんなで自由に物語を創っていきます。
- ぜひ、文化祭では図書室ものぞきに來てくださいね！



《図書委員おすすめの本 part5》

書名	作者名	おすすめの理由	図書委員
スピノザの診察室	夏川草介	この本は、哲学と医療の両方の観点から生と死について考えていく本です。また、患者と医師のやり取りを通して「どう人と向き合うか」を自然に考えさせてくれるのが魅力です。	203
イン・ザ・メガチャーナ	朝井リョウ	この本は、「大きな組織や集団の中で、人がどう考え、どう動くのか」を描いた小説です。推しがいる人ほど、自分の気持ちを考えさせられるので、ぜひ読んでみてください。	203
また、同じ夢を見ていた	住野よる	主人公の小柳奈ノ花が「幸せとは何か」という問いに向き合い、成長していく姿を描いています。奈ノ花は、小学5年生の大人びた女の子。その賢さゆえに、学校では孤立しがち。そんな彼女が、学校外で出会う不思議な大人たちとの交流を通して、人生の幸せを見つける物語。	205
語学の天才まで一億光年	高野秀行	世界各地の辺境を旅しながら、現地の言語を実践で身につけていく話で、「語学」を勉強ではなく生きるための道具として捉える点が魅力。	205
日本海軍失敗の本質	戸高一成	この本は、なぜ太平洋戦争で日本海軍が敗れたのかを深掘りする本です。この本の見どころとして、海軍の元士官など、当事者から聞いたことをもとに製作されているため、当時の日本海軍の様相が正確に分かる所です。	206
汝、星の如く	凧良ゆう	愛媛県が舞台の島で、家族や周囲の環境で悩みを抱える男女二人の物語です。愛とは何か、普通とは何か、互いに支え合う中で次々に問題が起こります。冒頭の言葉がとても印象的です。ぜひ読んでみてください。	206